

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 平成12年度第39回北海道博物館大会 (端野町大会) 終える

平成12年度第39回北海道博物館大会(端野町大会)は7月6・7日の両日、150名の参加のもとに端野町で開催された。

大会1日目は端野町公民館を会場に、午前10時より開会式、ついで総会に移り、平成11年度事業報告、同会計収支決算報告等が満場一致で承認され、さらに、平成12年度事業計画案、会計収支予算案も原案どおり可決された。また、平成13年度大会開催地は倶知安町に決定された。

その後、平成12年度道博協表彰式に移り、浦河町立郷土博物館友の会会長 田中久雄氏が授章の栄を受けられた。小休止の後、日本博物館協会専務理事 五十嵐耕一氏による特別報告「近年にお

ける社会情勢の変化と博物館」をもって午前の部を終えた。午後は、専修大学北海道短期大学教授 依 浩三氏による特別講演「北海道開拓・開発と自然環境のかかわり」が行われ、続いて本大会テーマ『地域の自然と歴史に根ざした博物館・園活動—利用者の視点から—』のシンポジウムが行われた。小樽市博物館長 土屋周三氏の司会により、北網圏北見文化センター協力会博物館部会長 伊藤公平氏、美幌博物館学芸協力員 羽根石晃彦氏、千歳サケのふるさと館学芸員高橋 理氏、仙台藩白老元陣屋資料館学芸員 武永 真氏からの4つの報告、報告をもとにした意見交換、討論が行われた。

2日目は、午前9時から町内施設等見学として、端野町立歴史民俗資料館、屯田兵被服糧秣庫、鎮塚、緋牛内大カシワを見学し、2日間にわたる全日程を終了した。

## 平成12年度ミュージアム・マネージメント研修会終了する

道東3管内博物館施設等連絡協議会の主催により、工夫と知恵の時代の博物館「博物館の魅力とは？」というテーマで、平成12年度ミュージアム・マネージメント研修会が68名の参加のもと下記の日程で開催された。

日 程：平成12年10月25日(水)～26日(木)

会 場：釧路パシフィックホテル 新館

内 容：基調講演「教育と社会～博物館への期待」  
北海道教育大学教育学部釧路校教授 高嶋 幸男氏 特別研修「アサーション・トレーニング」アサーティブ・ジャパン代表アントレーナー 森田汐生氏、講義「動物園は変わる～現状と課題」釧路市動物園学芸専門員 井上雅子氏、事例発表1「ヒグマ

の会とは何か」のほりべつクマ牧場ヒグマ博物館学芸員 前田菜穂子氏、事例発表2「足寄動物化石博物館友の会デスマクラブの活動」足寄動物化石博物館生涯学習課主幹 澤村 寛氏、施設見学 鶴居村ふるさと情報館、史跡北斗遺跡展示館

## 平成13年度北海道博物館協会表彰について

北海道博物館協会表彰規定に基づき、平成13年度表彰者の申請を受け付けます。「表彰規定」、「表彰規定細則」を参照の上申請ください。表彰式は、平成13年7月上旬に倶知安町で開催予定の第40回北海道博物館大会の席上で行います。「表彰候補者申請書」は平成13年2月2日(金)までに提出願います。不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 第39回 北海道博物館大会 端野町大会へ参加して

平成12年7月6日から7日の2日間にわたって端野町で北海道博物館大会が開催された。残念ながら私自身は全日程の参加はできなかったが、初日の大会の内容には、学芸員1年目の私にとって大変勉強になるものであった。初日の大会は「地域の自然と歴史に根ざした博物館・園活動ー利用者の視点からー」という大きなテーマを柱として、特別報告（「近年における社会情勢の変化と博物館」）、特別講演（「北海道開拓・自然環境とのかかわり」）、および4人のパネラーによるシンポジウムという形式をもって行われた。

特別報告は、北海道だけに限らず、今後、日本各地の地方博物館が直面するであろう問題点を浮き彫りにした大きな話題であった。地方分権、規制緩和、行財政改革により、行政主導形の公立博物館もサービスの向上が求められていること、情報集積基地として地域や学校教育との連携が求められていることなどに触れられた。その際、アメリカにおける博物館の事例などを盛り込みながら、今後の日本の地域博物館の方向性を示されたように思う。決してアメリカを真似るわけではなく、日本の、または日本各地の博物館独特の方法論を模索すると同時に相互協力も欠かせないということに力点が置かれていた。

特別講演は、北海道の開拓、自然破壊、自然保護という環境の変遷を辿りながら、21世紀を目前にした現在、博物館は何ができるのか、何をすべきかという講演であったと思う。講演者は端野町で植生が確認された「カタクリ」を例に、この希少な植物の調査研究を重ねることで、保護することが博物館の大きな役割であると同時に、地域をはじめ多くの人々に公開することもまた重要な役割であり、そのためには博物館が地域社会と協力し合う必要があると講演した。

シンポジウムでの4人のパネラーの報告は、各々の立場から博物館求めることや現在挑戦していることなどが報告された。報告1（「すべてのフィールドが博物館」）では、博物館・園が町のなかにあるのではなく、町自体が博物館として機能していくことを提案した。具体的には、北見市内にある博物館の総資料を分野別にわけ、それを分野別に博物館に配置し、より専門的な博物館につ

くりかえることで来館者のニーズにあわせようという提案であった。この提案には、資料1点1点がその地に根ざした歴史あるものであるから、その地から移動させるべきではないという反対意見もあったが、個々の興味をもった利用者の立場を考えた提案としては非常に参考になった。

報告2（『自分が持つ興味と博物館との関わり』）では、地元の自然に興味をもっている報告者が、知識の詰め込みとしての教育ではなく、感じる心を育てる教育、人間を作る教育を行う機能をもった博物館であってほしいと報告した。報告者の地元である美幌は、自然が豊かであり、美幌博物館も自然を体験する行事を数多く行っているが、報告者自身、美幌博物館の「学芸協力員」として、他に仕事を持っているにも関わらず、積極的に博物館活動に参加しているようだ。

このような積極的な協力者が博物館にとっていかに大事な存在であるかという、博物館側からの報告もあった（報告4「多くの協力者に囲まれてー博物館を助けるボランティア活動ー」）。仙台藩白老元陣屋資料館では高齢者によるボランティアグループ、幼児・小学生とともに学ぶ体験学習の場を作る高校生主体のグループ、その他にも様々な興味を持った人たちの協力を得ているようだ。報告者は、町民のおかげで博物館事業が支えられていると控えめであったが、個々様々に興味の違う人たちに支えられているという現状は、いかに広範囲な情報を町民の方々に提供しているかのあらわれでもあり、大変な苦勞があるだろうと感じた。

順番が逆になったが、報告3（「千歳川の自然と歴史を知るー学習・観察会とメディアの役割ー」）では、地元での学習会や自然観察会のほかにメディアを利用して広く館の活動内容を周知する努力を行っているようだ。特に地元の新聞に学芸員が週に一度コラムを執筆するというのは、新聞の一部を博物館だよりにしたようなものでおもしろいアイデアであると思う。

以上、思うがままに感想を記してきたが、「地域の自然と歴史に根ざした博物館」として、各方面で個々様々な活動をなさっており、大変勉強になった。今大会には1日しか参加できなかったが、短い時間のなかでいろいろな方々にお会いすることができた。今後機会を作って北海道各地の博物館を訪れて、各地域の努力や工夫を学ぶと同時に、北方民族博物館の立場としては何ができるのか考えていきたいと思う。

（北海道立北方民族博物館 学芸員 角達之助）

## 平成12年度道南ブロック博物館施設等連絡協議会の総会及び研修会報告

平成12年度道南ブロック博物館施設等連絡協議会の総会並びに研修会が7月25・26日、檜山管内今金町において33名の参加を得て開催された。

総会では、11年度からの2カ年事業としての成果である「道南博物館施設ガイドマップ〜ぐるっと道南博物館めぐり〜」が参加者の手元に配られた。このガイドマップの詳細については、道博協ニュース第69号に紹介されているので参照されたい。もう一つの事業である人材バンクの登録とデータ化についてはフォーマットができ、今後各市町村担当者の努力によるところが大きい。

総会ののち、「史跡整備と博物館活動」をテーマとして研修会が行われた。檜山・渡島管内では現在史跡整備に取り組んでいる市町村が多く、時宜を得たテーマといえ、上ノ国・南茅部・今金各町の現在の取り組みが報告された。上ノ国町では史跡整備事業と同時に町民を対象とした歴史講座、各種シンポジウムなどの普及活動を幅広く展開している現況が話された。南茅部町では遺跡発掘が

町の第2の産業ともいえるほど大きなウエイトをしめており、「大船C遺跡速報展示室」が本年4月に開設され、さらに見学者が増えつつあり、いろいろな組織・団体を巻き込んだ取り組みが報告された。今金町では全国でもあまり例のない旧石器時代の遺跡整備を計画中であり、遺跡全体を博物館としてとらえ、体験できる遺跡公園づくりが提示された。将来それぞれの時代や地域を反映した遺跡を見学できることが楽しみだ。

2日目の巡見では、ピリカ遺跡、砂金採掘跡、ピリカカイギウ化石産出地、旧中里小学校展示室を見学し、全日程を終えた。

(今金町教育委員会 学芸員 寺崎康史)



## 平成12年度北海道博物館学芸職員研修会 余市町大会

北海道博物館協会学芸職員部会が主管となって例年実施される北海道博物館協会学芸職員研修会が、道内各地の部会会員計50名が参加して道央ブロック管内の余市町で10月12日(木)、13日(金)の両日に渡って開催された。

平成9年の函館以降、テーマの主眼を「地域学のススメ」においてから4年目にあたる本年は、主題を『地域学のススメ=しりべしー地域展望=』として、「人」と「情報」のたまり場が博物館の原点と考えた上で、後志の視点から改めて博物館の活動について考えようというものである。

研修会1日目は余市町中央公民館を会場に、午前10時より開会式、その後に、北星学園大学教授の辻井達一氏から『北大植物園の話』と題した講演をいただいた。午後には、小樽市教育委員会学芸員の石川直章氏、西村計雄記念美術館学芸員の南部亜矢子氏、百年の森ファンクラブ会員の赤塚裕子氏の3氏から、それぞれ『旧日本郵船(株)小樽支店こども解説員のとりくみ』、『美術館・ワーク

ショップ最近の事情』、『百年の森ファンクラブの活動に参加して』の事例・活動報告、続いて倶知安町教育委員会の岡崎克則氏から『羊蹄山高山植物帯無届植栽への対応』の報告があり、その後に全体の質疑応答を行った。

また、初日の研修会終了後に部会総会が開かれ、平成13年度の活動方針(案)が承認され、次期の研修会を平取町で開催することを確認した。

2日目は、現地研修として乾氏と浅野氏から余市水産博物館の展示解説を受けたあと、フゴッペ洞窟、旧下ヨイチ運上屋、旧余市福原漁場を現地研修し、2日間にわたる全日程を終了した。

(北海道開拓記念館 学芸員 舟山直治)





## 平成12年度 沙流川歴史館特別展 「掘り出されたアイヌの遺物」(10/1~11/19)

平取町には多数の遺跡や伝説、そしてアイヌの伝統文化が残されています。とりわけ、二風谷地区はそうした伝統文化が受け継がれ、古式舞踊や木彫り工芸、織布、口承文芸等々の文化伝承の中心地ともなっています。

そこで、今年度の沙流川歴史館特別展では「掘り出されたアイヌの遺物」というテーマのなか、現代に受け継がれている木彫り工芸に焦点を当て、遺跡から出土する木製遺物の展示を通じてアイヌ木製品の系譜や技術を検証する機会のある場としています。

展示遺物は、北海道立埋蔵文化財センターのご協力により新千歳空港用地内の千歳市美々8遺跡低湿度部から出土した木製遺物のうち、舟部材、漁労具、狩猟具、切截具、農耕・工具、祭祀・儀礼具など全63点。また、舟部材の参考展示資料として財団法人アイヌ民族博物館から板綴舟ミニチュア模型(白老町指定文化財:児玉コレクション)をお借りし実物展示しました。加えて、それら出

土遺物と関係するアイヌ絵なども『蝦夷生計図説』等を活用しながら、わかりやすく解説した展示パネルで構成しています。

さらに、『国指定史跡 上ノ国 勝山館とその城下のアイヌ遺物』というタイトルで、最近話題の最古のイッバスイヤ弓、今年になってから発見が相次いでいる夷王山墳墓群からのアイヌ墓など勝山館やその周辺から出土したアイヌ関係資料をデジタル編集させていただき、映像を公開しております。

(沙流川歴史館 学芸員 森岡健治)



特別展示風景

## 道北地区博物館等連絡協議会活動 端っこ博物館から日本・世界へ情報発信

日本列島の北に位置する上川・留萌・宗谷の博物館は北の海・川・山・空の道の上に成り立っています。これらの道を遡っていくと、そこを歩き来た人々、生き物の動きに出会えます。出会えた動きを追い続けると、博物館が成り立つ地域を遥かに越えていきます。人や物の動きの道に入ると、どうしてもその出発地点がどこかを探します。

古代においてはシベリア大陸やサハリンからの南下、対馬暖流に乗って九州や本州各地からの北上、アイヌ史・近世史においては人の漂流漂着、欧米による日本海捕鯨漁、蝦夷地・北蝦夷地の国際的な探りによる情報公開、近代になると日本各地からの開拓移住による集落形成と伝統文化が流入しました。

生き物の固有種とその近縁種の分布を探ると、遠く4000kmも離れたシベリア中央部のアルタイ山脈やサハリン・千島、北海道・本州との繋がりが探られています。

歴史的・地理的な特徴をもつ日本列島の北に成

り立つ博物館は、その地点を見るとともに人や物の動きの原点となるはるか遠い地域を見つめ、さらにそこから成り立つ地域を見つけ直しています。

日本列島の最北端感覚は、そこから情報発信することによって、日本・世界各地と繋がりが組み立てられ打ち消されます。日本・世界との繋がりを見つけだし、今の成り立つ地域を知り、それによって未来の在り方を探ることへの地道な活動を端っこ博物館が展開しています。

(利尻町立博物館 学芸係長 西谷榮治)



1848年 利尻島に渡島したラナルド・マクドナルド記念碑  
アメリカ・オレゴン州・アストリア

## 国際シンポジウムと博物館 —北海道立北方民族博物館の取組み—

平成3年の開館以来、当館では毎年北方民族文化シンポジウムを開催してきました。当シンポジウムは地元網走市が第4回まで開催し、当館が5回以降を継承したかたちで開催してきました。なお、その後も網走市より運営費等の多大な支援をいただいているところです。

文化と環境との関係あるいは北方諸民族のさまざまな文化の諸相を各回のテーマとし、国外・国内の研究者、文化伝承者による発表と議論が行われ、それらに基づく報告書を刊行してきました。10月26日・27日に開催の第15回を含めこれまで延べ190名の発表者、座長、コメンテーターをお招きしてきました。国外からはアメリカ、カナダ、スウェーデン、ドイツ、ポーランド、ロシア連邦より40名以上を招聘しています。

当館の運営にとってこのシンポジウムの開催は2つの意味で大きな役割を果たしてきました。1つは発表や議論をつうじて北方諸民族文化のさまざまな情報を得ることができることです。限られ

た職員体制で広く北方諸民族の文化・歴史を対象とする当館にとって、さまざまな地域や研究分野の発表は、博物館の調査研究を補完するとともに、今後の調査研究の指針としても有益な情報となっています。また、博物館事業の実施には人的ネットワークが欠かせないことは多くの博物館職員が経験するところですが、国内外からの招聘者の方々とつながりは、調査研究や展示普及事業の展開においても有益な効果をもたらしてきました。当館を直接知っていただいた多くの招聘者と当館とのネットワークは回を重ねるごとに拡大・充実し、協力体制が構築されてきています。これらのつながりは最近の館職員の調査でも事前の情報収集や現地調査に生かされています。

コンピューター通信など情報機器の発達した今日においても、人と人との触れ合いが相互理解の第一歩といえるでしょう。その意味でも北方民族文化シンポジウムの開催は今後も重要な役割を果たすことでしょう。平成11年度から三カ年にわたり「北方諸民族文化のなかのアイヌ文化」を共通テーマとして、道民、道内博物館職員の関心の高い日本列島と周辺地域との文化的関係を取りあげています。多くの参加を期待しているところです。

## 巡回展

### 「キャラメル空箱コレクション」

道東3管内博物館施設等連絡協議会は平成2年に発足しましたので、今年で設立10周年を迎えました。現在、十勝・釧路・根室管内の24施設が会員となって、相互の連携を図りながら事業活動の推進を行っています。

本年度はその事業の一つとして、巡回展「キャラメル空箱コレクション」を実施中です。このコレクションは釧路市在住の荻山勝之さんが少年時代（昭和30年代前後）に収集したもので、道内と本州の菓子メーカーのキャラメル箱、約150点からなるものです。平成11年12月に釧路市立博物館が開催した「私の博物館」、これは市民所蔵のコレクションを紹介する特別展ですが、そこで荻山さんが初めて展示公開され、その後釧路市立博物館に寄贈されたものです。

昭和30年代といえば、駄菓子屋さん全盛の時代で、キャラメルは子供にとってちょっと贅沢なお菓子でした。おまけつきキャラメル、ユニークな名前キャラメル（ニイタカラクダ、黄色キャラ

メル)、ヌガー、果汁入り・果実入りキャラメルなどの、様々なパッケージに描かれた懐かしいイラストからは、当時の時代背景が浮かび上がってきます。

展示資料は半切額（5枚）、四つ切額（18枚）、解説パネル（8枚）で構成され、そのまま展示することができます。もし、展示ご希望の施設がございましたら、釧路市立博物館（TEL0154-41-5809）までお問い合わせ下さい。

なお、すでに神田日勝記念館、中標津町郷土館で巡回展示され好評を博し、浦幌町立博物館でも開催中です（10月6～27日）。

（釧路市立博物館 館長補佐 橋本正雄）



道新(中標津版)平成12年9月21日

## 館 園 紹 介

### リニューアル・オープン

#### 市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)

このたび10月1日装いも新たに、リニューアル・オープンしました市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)についてご紹介します。

ご周知のとおり、市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)は、昭和44年開館以来、函館ゆかりの民俗、歴史資料や初代渡邊熊四郎等の旧金森洋物店関係資料などを展示紹介し、函館市民はじめ多くの観光客、修学旅行の子供たちに親しまれてきました。この間、旧金森洋物店は、明治13年の建築より幾度かの改築や十勝沖地震などの被災も手伝って年毎に建物の老朽化が著しく、平成10、11年度の二ヶ年にわたり、長年の懸案であった建物の復元改修工事が行われ、これに合わせこれまでの一階のみの展示スペースに加え二階展示スペースの拡充などにより旧金森洋物店店舗の再現や明治期のハイカラな函館文化や街並みを紹介するなど展示内容の充実を図りました。



旧金森洋物店開店

ここで現存する数少ない明治の洋風建築物旧金森洋物店の概要をたどってみたいと思います。函館は、明治から昭和にかけて未曾有の大火を経験してきました。明治12年の大火で焼け出された初代渡邊熊四郎は、開拓使の不燃質家屋の奨励施策に応じ、翌年の11月、開拓使の茂辺地煉瓦石製造所の煉瓦を使用した洋風不燃質店舗「金森洋物店」を竣工、開店させました。当時の金森洋物店は、舶来製の小間物、雑貨、食料品を販売し賑わっていましたが、明治40年の大火では、周囲の不燃質店舗がごとく焼失する中で唯一金森洋物店のみが難を逃れました。その後、大正14年まで金森洋物店として使用された建物は、煉瓦建築史、函館防災史および開拓使による家屋改築施策の記念物として、昭和38年に北海道有形文化財に指定されました。

さて旧金森洋物店として、リニューアルオープンしました郷土資料館の新たな展示内容の一部をご紹介します。まず、二階建ての白い漆喰壁の建物全体の外観を見ると、当時の錦絵や写真などをもとに復元された開店当時の看板や外灯、貯水樽がひととき目を引きまします。引き戸を開け玄関に入って、受付を過ぎると、初代店主渡邊熊四郎

が欧米漫遊の際購入したオルゴールの音色が店内に流れる中、土間に一段高い20畳ほどの帳場と商品棚が設けられ、ビール、缶詰、コーヒーレプリカ、宣伝広告チラシ、家具、調度品とともに明治の商い風景が再現されています。

階段を上がっていくと、二階中央に明治の函館の賑わいを再現した風俗人形のジオラマと荷揚げの再現展示を楽しむことができます。また、初代店主渡邊熊四郎とゆかりの資料、幕末のペリー来航にはじまるハイカラな函館文化、明治中頃の活気にあふれた函館の街並みなどを紹介するとともに、およそ120年ぶりに蘇った金森洋物店の建物構造体の展示およびビデオ紹介なども行っております。



明治の賑わい「金森洋物店」あたり

以上、新生開店した市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)の見どころをご紹介しましたが、まずは、百聞は一見にしかず。「明治函館のハイカラ商い風景」をコンセプトとした古くて新しい「旧金森洋物店」をとおして、古き佳き時代「明治の函館」に思いを馳せていただければ幸いです。

場 所：函館市末広町19-15(市電末広町下車)

観覧時間：午前9時～午後4時30分(4月～10月)

午前9時～午後4時00分(11月～3月)

入 館 料：大人100円、学生・生徒・児童50円、  
函館市内在住65歳以上の高齢者50円、  
障害のある方無料

休 館 日：月曜日、祝日、毎月最終金曜日、年末年始

お 問 合：市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店)

TEL/FAX 0138-23-3095

(市立函館博物館 学芸係長 長谷部一弘)



旧金森洋物店店舗風景



## 館・園の主な展覧会と普及事業

(2000年11月～2001年3月)

### 石狩

- 江別市セラミックアートセンター(TEL:011-385-1004)  
10.21～12.10「鈴木のり子の世界」  
2.3～2.25「収蔵品展」  
3.3～3.25「道内工芸作家新作展」
- 札幌芸術の森(TEL:011-591-0090)  
10.24～12.17「中根邸の画家たち」  
12.29～3.25「北の創造者たち展・2000年」  
10.22～12.24「北のクラフト(金属・七宝)」  
1.14～3.25「森から生まれたクラフト展Ⅳ」
- 北海道開拓記念館(TEL:011-898-0456)  
11.3 講演会「森と人」  
11.5 鑑賞会「くらしの音色鑑賞会」  
11.17～12.17 テーマ展「カレンダー北海道紀行」  
12.17 講習会「絵馬をつくる」  
2.2～3.4 テーマ展「家族の日記」  
2.5～2.9「北海道庁道民ホール展」  
2.7, 2.27 講習会「羊毛を紡ぐ」  
3.4 観察会「動物の足跡をたどろう」  
3.24～25 学芸員研修講座「遺跡を読む」  
11～1月 体験学習「わら細工に挑戦」  
2.1～30 体験学習「せ・ん・い わーど」など
- 北海道開拓の村(TEL:011-898-2692)  
11.5, 11.19など「わら細工講習会」  
11.25「むらの講演会 開拓と移住―秋田県―」  
12.1～1.28 特別展「開拓と郵便」  
12.23 「むらのクリスマス」  
1.27, 2.24 講座「開拓期の政策―屯田兵―」など  
3.18「むらの自然観察会―樹木―」
- 北海道立文学館(TEL:011-511-7655)  
2.10～3.11 企画展「花咲く北の川柳」
- 北海道立近代美術館(TEL:011-644-6881)  
12.19～1.25「A★MUSE★LAND2001」  
2.1～3.11「池田満寿夫展」
- 北海道立三好好太郎美術館(TEL:011-644-8901)  
11.14～1.21 所蔵品展「詩と絵画のハーモニー」  
1.27～3.25「三好好太郎・節子賞展」
- 千歳サケのふるさと館(TEL:0123-42-3001)  
9.2～11.30 秋の企画展「食材としてのサケ」  
1.21～4.8 新春特別展

### 渡島

- 楡法華村灯台ファミリー博物館(TEL:0138-86-2115)  
11.3「第6回灯台まつり」
- 北海道立函館美術館(TEL:0138-56-6311)  
10.22～12.3「現在に生きる書」

- 1.5～3.20「北海道港町・浪漫」
- 上ノ国町郷土館(TEL:01395-5-3131)  
11.1～3「町民文化祭」  
11月「かみのくに歴史講座」

### 後志

- 北一ヴェネツィア美術館(TEL:0134-33-1717)  
11月中旬「ガラス制作体験教室」
- 小樽市青少年科学技術館(TEL:0134-22-0031)  
11.26, 2.24「わくわく実験教室」など
- 木田金次郎美術館(TEL:0135-63-2221)  
11.3 開館記念日アニバーサリーコンサート  
12.15 第6回木田金次郎を偲ぶ「どんざ忌」

### 空知

- 滝川美術自然史館(TEL:0125-23-0502)  
12.5～2.4「絵と写真によるわが街展」  
2.23～3.31「書・収蔵品展」  
1.7, 14, 20, 2.17, 3.10「化石のレプリカをつくろう」など
- 美唄市郷土史料館(TEL:01266-2-1110)  
11.26「年賀状づくり」  
12.10「しめ縄づくり」  
12.17「かど松づくり」

### 上川

- 旭川市青少年科学館(TEL:0166-22-4171)  
1.13, 14「科学探検広場」
- 中川町郷土資料館(TEL:01656-7-2419)  
11月 顕微鏡観察教室「なんでも拡大してみよう」  
2月「レプリカ教室」
- 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(TEL:0166-52-0033)  
11月～12月中旬「旭川の彫刻家～藤川叢三展」  
12月下旬～1月「第4回彫刻美術館を描く展」  
2月～3月「収蔵品展」
- 富良野市郷土館(TEL:0167-22-3864)  
11.2～16 特別展「無頭川遺跡発掘展」  
2月～3月「道北地区博物館等連絡協議会巡回展」  
11.12, 26 講座「富良野の歴史を知る講座」  
3.11 「冬の自然観察」
- 北海道立旭川美術館(TEL:0166-25-2577)  
11.3～3.25「コレクションによる―注文の多い“美術”展」

### 網走

- 美幌博物館(TEL:01527-2-2160)  
10.1～11.12「ふるさとの作家展」  
11.15～12.10「交通安全ポスター展」  
12.17～1.28「寄贈美術資料展」  
2.4～3.4「冬季作品展」
- 北海道立北方民族博物館(TEL:0152-45-3888)  
11.11, 12.9, 3.10 博物館クラブ「イヌイト・ヨーヨーをつくろう」など  
1.10～3.25 開館10周年記念企画展「グレートジャーニー～北をめざした人類の子孫たち～」

- 1月中旬 開館10周年記念講演会「グレートジャーニー～人類400万年の旅をたどる～」  
 2.10 開館10周年記念講座「アラスカの先史文化」  
 ●上湧別町ふるさと館 J R Y (TEL:01586-2-3000)  
 12.9 「もちつき大会」  
 12.16 「しめなわづくり」  
 1月 企画展「暖房」  
 3月 体験学習「ひなまつり」

**胆振**

- 苫小牧市博物館 (TEL:0144-35-2550)  
 11.25, 12.9, 1.20, 2.10, 3.10 「博物館クラブ」  
 12.3 「わら細工教室」  
 11.3, 1.7, 3.31 「映画会」  
 1.21～2.11 「平成11年度新収蔵資料展」  
 2.25～3.25 「消えゆく生き物たち展」  
 ●室蘭市青少年科学館 (TEL:0143-22-1058)  
 11.23 「室蘭市小中壘学校理科研究発表会」  
 1月 「冬休みパソコン教室」  
 1.12 「親子工作教室」  
 3月中旬 「菊作り講習会」  
 ●室蘭市民俗資料館 (TEL:0143-59-4922)  
 10～12月 「ふるさと講座」  
 1月中旬 「特別講座」  
 2月下旬 「雪と友達！冬フェスタ」  
 3月中旬 「ふるさと講座」

**日高**

- 門別町図書館郷土資料館 (TEL:01456-2-3746)  
 12月 特別展「切手の20世紀」  
 12月 体験学習「そばうち教室」  
 ●沙流川歴史館 (TEL:01457-2-4085)  
 10.1～11.19 特別展「掘り出されたアイヌの遺物」

**十勝**

- おびひろ動物園 (TEL:0155-24-2437)  
 11.12 「第25回裏側探検隊」  
 ●北海道立帯広美術館 (TEL:0155-22-6963)  
 10.6～11.29 「美術はなにを記録してきたか」  
 12.8～1.24 「東欧絵本の世界展」  
 2.2～3.28 「帯広美術館コレクション選集」  
 8.18～11.29 「十勝の新世代Ⅲ 伽井丹彌展」  
 12.8～3.28 「道東の美術家たち」

**釧路**

- 釧路市青少年科学館 (TEL:0154-41-6225)  
 2月下旬～3月上旬 「女性科学教室」

**根室**

- 標津サーモン科学館 (TEL:01538-2-1141)  
 10～11月 特別展「サケの自然産卵」  
 11月 「サケの採卵実習」  
 11月 「サケの採卵行動観察会」

**役員異動**

次のとおり役員の変更がありました。

理事 雨宮 正氏

(札幌市青少年科学館館長 矢野 義和氏後任)

**館名変更**

次のとおり館名の変更がありました。

層雲峡ビジターセンター

(元大雪山国立公園層雲峡博物館)

**事務局日誌 (平成12年5月30日～9月19日)**

- 5月30日 第39回北海道博物館大会負担金交付申請書を端野町に送付  
 6月6日 道博協ニュース第69号原稿依頼  
 6月20日～7月14日 臨時職員雇用  
 6月23日 「第39回北海道博物館大会資料」発行  
 7月8日 平成12年度日本博物館協会顕彰候補者申請依頼  
 7月11日 平成12年度アイヌ民族文化財専門職員等研修会後援  
 7月12日 平成12年度日本動物園水族館協会飼育技術者研修会補助金送付  
 7月18日 博物館協議会、博物館ガイドについてのアンケートを青森県博物館協議会に回答  
 7月19日 賛助会員 ホテル斜里館退会、個人会員 高桑 華夷治氏入会  
 7月21日 個人会員 川原木 美耶子氏入会、個人会員 津野 功氏退会  
 7月24日 平成12年度道南ブロック博物館施設等連絡協議会交付金送付  
 7月26日 平成12年度日本博物館協会顕彰候補者の申請  
 8月1日 第15回北方民族文化シンポジウムの後援  
 8月16日～24日 臨時職員雇用  
 8月24日 平成12年度道東3管内博物館施設等連絡協議会交付金送付  
 9月14日 平成12年度ミュージアム・マネジメント研修会補助金送付  
 平成12年度道北地区博物館施設等連絡協議会交付金送付  
 平成12年度第2回役員会開催案内  
 9月14日～21日 臨時職員雇用  
 9月19日 平成12年度石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会交付金送付  
 平成12年度北海道博物館協会学芸職員研修会開催依頼送付